令和四年八月鹿ノ台川柳教室　優秀句

お題「なるほど」奥村義雄選

納得し心が通い会う仲間　きよな
お説教うつろな胸に染みわたる　アキラ
平凡でいい母の言葉が分かる今　郁子
なるほどと信じていたが詐欺かいな　えいじ
敵影はこころの襞の中に棲む　よう子
納得に脳波はつねに疑問形　正清
永田町票と利権のせめぎあい　アキラ
隠し味塩一つまみ甘さ増す　乃り子
理解できるしかし納得するの無理　英二
三つ子にもじいじにもあるブルーな日　広子
法律あるから抜け道考える　よう子
なるほどと言ってとびだす批判論　正清
今わかる祖母の言ってたあれやこれ　広子
言い方を変えれば相手納得し　基弘
秀　もう少し上手く言い訳して欲しい　英二
軸　なるほどが人に遅れる血の巡り　義雄

お題「風」（連記）水間　充選

熱気球うまく降りるか神だのみ　えいじ
孫たちと過ごすお盆の緩い風　哲子
嘘まこと風の便りに聞く噂　義雄
夏となり生ぬるい風頬なでる　仁史
ショパンには届かぬ声のアゲンスト　正清
信州の風と緑が誘う旅　郁子
親苦労どこ吹く風のドラ息子　登美
微笑みに風の色さえ光りだす　広子
父の香をいつまで残す潮風よ　きよな
ポール横風のいたずらホームラン　幸男
強風を微風にかえていざ八十路　乃り子
風に声あり遠い過失に触れてくる　よう子
向い風前に進んでゆくヨット　英二
社長が代わり付き合いの相手変え　千楽
京の風川床で愛で諭吉飛ぶ　アキラ
エアコンをつけて主役の扇風機　ちさと
秀　路地裏はいろんな香り運ぶ風　基弘
軸　コロナ禍を鎮めて踊る風の盆　充

お題「ゆっくり」山神きよな選

ゆっくりお食べ言われた孫がシロに言う　義雄
散歩して五百歩だけの歩数計　ちさと
ひと晩休み悩みなど吹っ飛んだ　千楽
八十路そこアクセルふかしラストラン　乃り子
ゆっくりと終活ふたり完歩する　正清
考えずもう永遠のごゆっくり　登美
つつがない日日にゆっくり老いせまる　よう子
わだかまりゆっくり溶かすかき氷　アキラ
ゆっくりと回る地球が忙しない　広子
ぼちぼちとまだ学んでる人の道　えいじ
明日からすることがない写経でも　郁子
ゆっくりと親の来し方聞かぬまま　広子
ゆっくりと老いてささっと旅立つの　英二
リハビリの一歩目そっとゆっくりと　アキラ
秀　ここからは終着駅へ鈍行で　きよな
軸　急いでも濡れるの同じ雨の中　登美

お題「狙う」（共選）立木仁史選

バーゲンの現品狙いトップの座　哲子
妬みかな狙われる身も悪くない　英二
さあ国葬五輪のようにひと儲け　義雄
東大を狙って少しそれただけ　えいじ
狙いうち成功すれば儲けもの　郁子
高齢者ばかり憂き目に詐欺被害　千楽
エサ欲しいムッチリさんを蚊が狙う　ちさと
狙い目は一か八かの針の穴　哲子
本命を外して添えた今の妻　きよな
この人と決めた私は又ハズレ　登美
高額の景品狙いむだ使い　幸男
狙われる心配無いとすかんぴん　基弘
狙っても餌だけ取られまた坊主　乃り子
テーブルのサンマを狙うポチとタマ　広子
盆明けのセールの下見抜かりない　よう子
秀　狙ってる椅子になかなか空きがない　仁史
軸　ウクライナロシアの狙い何なのか　充

お題「狙う」（共選）原　広子選

自慢話何度もしたく小出しする　えいじ
まだまだよ狙い定めて進むだけ　哲子
妬みかな狙われる身も悪くない　アキラ
警固の甘さ狙われた西大寺　哲子
本命を外して添えた今の妻　登美
高額の景品狙いむだ使い　基弘
狙っても餌だけ取られまた坊主　よう子
狙ってる椅子になかなか空きがない　幸男
狙われる心配無いとすかんぴん　英二
さあ国葬五輪のようにひと儲け　郁子
高齢者ばかり憂き目に詐欺被害　郁子
国葬は外交利用とも見えて

間違って国を揺るがす狙い撃ち　幸男
文春に狙われてると見栄を張る　英二
秀　東大を狙って少しそれただけ　義雄
軸　狙われた頃もあったか笑いジワ　広子

自由吟（自選）　柳号五十音順

いのちより大切なものありますか　アキラ
覚悟してますエアコンの電気代

死後もなお取り沙汰される人の生　郁子
若い日に友と戻った午後のお茶

蝉にも言い分が黙って聞こうか　えいじ
カード忘れ電車乗るのも一苦労

浮かばれぬ餓死を戦死と言われても　英二
日の丸が思い出させる阿鼻叫喚

盆踊りも花火もある夏祭り　きよな
蛍の火チカチカ飛んで恋をする

バースディーラベンダーだけほほえみぬ　ちさと
あたためて息を再びするハート

エリートをつるべ落としが待っていた　千楽
大きい国が大国と限らない

空いっぱい明日への希望花火咲く　哲子
暑さ割る球児の熱い甲子園

ひまわりを取り合うロシアウクライナ　登美
鱧料理梅肉みそと大論議

限界だ暑さにコロナ平手打ち　乃り子
今日痛む一昨日のスクワット

安倍さんの暗殺撃はうなずけぬ　仁史
コロナ禍で検査検査と押し寄せる

床の間にカサブランカの自己主張　広子
酷暑続きほんにビールの美味なこと

水たまりに顔を忘れて小半日　正清
センサーがこわれ苦さが判らない

相手より暑さとコロナ甲子園　充
場所取りをするが楽しい夏祭り

レコードの雑音昭和の流行歌　基弘
猛暑日はガス前たたずレンチンで

阿波踊りエライヤッチヤと渦を巻く　幸男
神仏盆と正月戻り来る

欲を捨て楽しみ拾う八十路坂　よう子
仏前に座りしばしの無の世界

負の遺産どっさり積んだ岸田丸　義雄
誕生日うれしい振りで過ごす老い

九月誌上句会　九月二十二日十五時投句締め
「えらいこっちゃ」英二　「ユーモア」（連記）千楽
「ささやか」哲子　「打つ」（共選）基弘　ちさと
各二句　自由吟　自選六句
九月二十七日（月）　勉強会　十三時開場
北集会所２階ホール
＊互選無し　希望者だけ参加してください。

自治連合会登録の文化クラブです。
句会見学大歓迎です。　左記へお電話ください。

問合せ
原　広子（７９・００６１）
野々村詮（０９０・６９６１・１２９２）